

# 木牟礼城跡 探検会



木牟礼城跡

《とき》 平成29年5月14日（日）午前9時30分～正午

《ところ》 市指定史跡木牟礼城跡ほか

## 1 『中世山城』とは？

中世山城とは、いわゆる「中世（鎌倉～戦国時代）」と区分される、特定の時期にのみ全国的に普及した、山頂や山腹などの自然地形を利用した戦闘的施設で、その後は近世の人工的施設である「(天守閣を持つなどの)城郭」へと変遷し、権力者の象徴的・政治的施設として続きます。

中世山城は自然地形を利用した立地特性から、山頂部や丘陵部を切り開いて平坦地を造り、隣り合う平坦地どうしは谷地形や人工的に造られた堀や空堀で区切られています。この平坦地が「曲輪（くるわ、「廓」とも表記します)」で、この曲輪内に戦闘指揮所や武器・食糧倉庫などの施設を建て、非常時にはここで生活し、戦闘に備えていました。

そして、この曲輪と曲輪どうしを区切る堀などを一つのセットとした複数の曲輪やその他の山城遺構の集合体を中世山城と呼びます。

## 2 出水市の中世山城

現在、市内には 24 箇所の中世山城跡が確認されています。このうち市指定史跡は、今回探検会を開催する『木牟礼城跡』のほか、麓町の「城山（亀ヶ城・花見ヶ城）」、高尾野町の紅葉城跡、野田町の亀井山城本城跡の 4 史跡です。

これら以外の中世山城跡は、遺構が良好に残っていても、その立地状況や環境・管理状況等によっては雑草・雑木等が繁茂して、大事な遺構を隠してしまい人目に付きにくくなっていることが多くみられるようです。最悪の場合、山城遺構の存在が忘れられてしまい、その結果、知らない間に工事などにより遺構が消えてしまうことが心配されます。



麓町の城山（亀ヶ城・花見ヶ城）

（※中世山城としての名称は出水城跡）

### 3 木牟礼城関係 年表 (『高尾野町郷土誌』等より)

	時代	西暦	郷土のできごと	主な出来事
中	鎌倉時代	1185 年	島津忠久が島津荘下司職に就く	鎌倉幕府成立
		1195 年頃	島津忠久の家臣本田貞親が木牟礼城を築く	
			鎮国山感応寺が創建される	
世	室町時代	1197 年	島津忠久、三州(薩摩、大隅、日向)の守護職に任ぜられる	
		1363 年	島津氏が総州家と奥州家に分かれる	
現代		1422 年	島津久豊(奥州家)が木牟礼城の島津守久(総州家)を討ち、木牟礼城は廃城となる(総州家滅ぶ)	
		1985 年 (昭和 60 年)	『木牟礼城跡』が高尾野町文化財に指定される	
		2006 年 (平成 18 年)	市町合併により、出水市指定史跡『木牟礼城跡』となる	

### 4 中世山城の用語

大手 (おおて) …山城全体の正面、表門。城の裏 (裏門) は搦手 (からめて) と呼ばれる。

水手 (みずのて) …飲料水など生活用水を供給できる場所

切岸 (きりぎし) …曲輪の周りの斜面を人工的に急にして登りにくくすること。曲輪以外にも作られている場合もある。

空堀 (からぼり) …尾根の鞍部や曲輪を掘り切って、尾根伝いや隣接する曲輪から敵の進入を防ぐために造られた水の無い堀。

土塁 (どるい) …曲輪の周囲に、空堀を掘った時の土などを利用して、線・帯状に盛って空堀や切岸とセットとなって曲輪を防御するもの。

虎口 (こぐち) …曲輪の出入り口。戦国時代になると敵の進入を防ぐため、枡形虎口や喰違虎口など様々な形が生み出された。

豎堀 (たてぼり) …山城において、山の斜面に上下方向に設けた堀。斜面を縦に仕切って、敵が横に移動することを阻止するもの。

曲輪 (くるわ) …城や砦の周囲にめぐらして築いた土石の囲い。



# 木牟礼城跡探検会 会場図

